

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0193600228), 法人名 (社会福祉法人 天寿会), 事業所名 (グループホーム いたどり (ユニット型)), 所在地 (北海道白老郡白老町字竹浦135番地7), 自己評価作成日 (令和2年10月6日), 評価結果市町村受理日 (令和2年12月3日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_unei=true&JigyosyoCd=0193600228-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ), 所在地 (札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103), 訪問調査日 (令和2年10月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「自分らしい暮らし」の在り方を考え、その日その日に行われる食事や掃除などの家事作業を、入居者様と共同し行い自分に自信を持って頂き、入居者様が物事に対し積極的に取り組む様にできることをサポートし、充実した毎日を送って頂けるように支援しています。認知症の進行や高齢に伴う身体状態の低下に対しても、その時の状態に応じた「できること」を、日々の記録や支援の中で探り職員全体で把握し、支援に繋げる事で、その方のペースで自分の力を発揮できる機会を設けられる様に努めています。生活を送る上でのタイムスケジュールは設定せず、ご本人がその日の体調や状態などで自己選択し個々のペースで過ごすことができる様に支援しています。また、ご本人以外にもご家族の思いに対しても確認し、日々の生活支援や行事等に対し実現できる様に取り組んでいます。町内へ情報誌を回覧して頂き、町内会のイベントに参加する事で知って頂く機会を設け、職員やご家族様以外に地域住民の力をかり、入居者様を支えられる様にも努めています。

当事業所は、虎杖浜温泉が近くにあり、施設からは海と山が望める自然に恵まれた静かな住宅街にある。平屋建ての玄関を入ると左右に各ユニットがある2ユニットの施設である。リビング、浴室、トイレなど共用の空間は広くてゆとりがあり、温度・湿度も適切に管理され、利用者は居間、談話コーナーなどで思い思いの場所にソファに座りながらゆったり過ごしている。例年は利用者と職員が一緒になって、地域の清掃や夏祭り、文化祭等へ参加して地域住民と交流したり、事業所の行事(餅つき)に地域住民が参加するなどして相互に交流し、また、近隣での散歩や買い物に出かけながら地域住民と挨拶を交わしてなじみの関係があったが、現在コロナ禍により自粛している。職員は、コロナ禍であっても利用者とのレクリエーションを行ったり、日々の生活支援を行いながら笑顔で寄り添っている。管理者は職員育成に努め、法人内外の各種研修への参加を職員に促したり、上級資格取得を勧めてケアの質の向上に努めている。災害訓練ではコロナ禍で住民の参加のない状況であるが、町の防災無線の使用許可を受けているため、災害時や緊急時に町内に向けて応援依頼の町内放送を流せるシステムを構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation status.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目の届く場所に理念と方針は掲げているので、いつでも確認できる。理念の共有と実践に繋がれるよう意識しながら業務はしている。	事業所理念を事務所内に掲示し、携帯カードに記載した理念をネームプレートと一緒に携行して、理念を確認しながら日々のサービス向上に繋げている。理念に基づきながら、年間目標を立てたり、日勤者がその日の目標を立てながら、ケアに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し今年度は班長を行っている。町内活動への参加に関しては今年度はコロナの関係で活動自体が中止になったので参加はしていないが、昨年はお祭り等の活動に参加した。	町内会に加入しているが、例年は町内のごみ拾いや夏祭りに参加したりしていたが、コロナ禍により自粛している。町内会に広報誌を回覧して認知症への理解と協力を得るなどしている。また、散歩時等で出会った住民との挨拶を交わしたりして交流につなげている。	コロナ禍それ以降を見据えて、地域のボランティア等の担当窓口との関係継続に努め、地域住民の交流である各種イベントやレクリエーションの計画を立てながら町内会に提示し今後の交流関係に努める事を期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会には月1回情報誌を回覧板にて回覧して頂き活動内容や事業所の様子などを確認して頂いている。また、法人内のホームページにブログを作り、町内外に事業所内の様子を発信している。地域に向けた見学会を実施し参加者へ認知症や支援に対する説明をさせて頂いた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所内における活動・取り組み・入退院・入退去・事故報告などを行い、運営推進会議構成員の皆様からご意見を頂きながら、サービス向上に繋げている。今年度はコロナの関係で事業所内での会議を開催せずに紙面にて報告している。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、知見者、地域住民、利用者、家族等が参加していたが、コロナ禍の感染予防対策の為会議は開催せず、資料を送付し、意見や質疑応答を書面で交わしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内の様子に関しては、運営推進会議へ参加して頂いたり、毎月の情報誌の発信などを行い確認して頂いたりし、ご意見を頂いている。	コロナ禍の影響もあり、町役場への報告・連絡は電話・ファックス・メールを利用する事も多く、後見人制度の利用に伴い、町との情報提供や意見交換を行いながら対応を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会に参加したり、委員会を中心に、事業所内にて定期的な研修を行い学ぶ機会を設けている。夜間の防犯に備えた施錠以外は玄関の施錠は行わず自由な出入りをして頂いている。	身体拘束廃止委員会、適正化委員会、虐待防止委員会の合同委員会を定期的に開催し、研修では身体拘束の弊害や具体的な禁止行為、不適切な言動について正しく理解している。夜間は防犯上施錠するが、日中は玄関の施錠は行わず自由な出入りをしてしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内外実施されている研修に参加し学ぶ機会を設けている。また、委員会を中心に虐待事例での勉強会(研修)もしている。職員間でも言葉遣いなど互いに注意し合っているが、改善に繋がらない事もある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する。参加できなかった職員は研修資料の確認をしたり、職員間で話合うなどし共有を図っている。また、学んだ事を業務に活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には直接面談し、契約書を確認してもらい十分な説明を行っている。また、都度疑問点などないかの確認を行い理解を得られやすい様にしている。改定時には、改定前と改定後の変化を紙面でお伝えし理解得られやすい様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に話せられる様に、普段の会話や関りの中で気持ちを引き出せられる様に努力している。ご家族には面会時や電話連絡などで相談や意向の確認をし、それらを業務に活かしている。	日常の会話や表情等から利用者の意見や要望を把握し、家族からは要望を聞いたり、遠方の家族に電話連絡したりして意見や要望を聞いて運営に反映させている。玄関には苦情相談受付窓口を掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回のミーティングにて気付いた事への意見や要望などを伝え、その事が実行できる様にしている。又、日常的にも意見や疑問などを聞く体制をとり、その事が反映されている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、ミーティング時に職員の意見・要望を聞いている。事業所独自のパソコンを利用したキャリアパスシート、グループウェアやメールを活用して職員が意見・提案を提出できる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望する研修への参加を聞いてくれる。又、毎月希望休暇や長期休暇を頂けリフレッシュでき、業務にもやりがいをもてる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はもちろん、法人内の内部研修も定期的に開催している。内容的にも職員の意見を聞きながらテーマを決め開催している。介護福祉士実務者研修にて資格取得へのサポートをしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通じ他部署職員との交流や意見交換を行いサービスの質向上に努めている。町内グループホームへの運営推進会議に参加したり広報誌での交流を図り、互いに意見交換などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談などを行い、ご本人の意向・現状確認とご家族・関係者等から意見・情報を頂き、入居時に不安感をもたない様に支援している。入居後は本人からの要望など細やかな記録を残し、職員間の情報共有を図り、支援にむすび付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも入居に対する希望などの確認を行う。また、入居した後のご本人の様子を情報誌や電話などで連絡するようにすることをお話する。職員から声掛けし話しやすい環境をつくり、ご家族が抱える言いにくい不安な事柄も引き出せるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状態の変化時には、外部機関などご本人の身体状態とご家族の希望に応じた支援ができることを伝えている。また、お話を聞くうえで他事業所の支援が必要と判断した際は他事業所の提案などさせて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業や行事の準備などを一緒に行い、その中で得意・不得意な部分を教えたり教えられたりし、生活を送る上で互いに支え合いながら暮らしている。また、利用者同士も互いに支え合い、互いの意欲向上に繋げられる様な関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、ご本人の普段の様子をお伝えし、遠方の方については毎月発行する情報誌やブログ等も活用し様子をお伝えしている。ご家族を交えた行事を企画しご家族と一緒にご本人と楽しめるようにしている。ケアプラン作成時にもご家族の意向を反映し、共にご本人を支える様に作成している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅に居た頃に通院していた病院や美容院、お参りしていた神社等、今までと同じように生活できる様に努めている。また、在宅にいた頃の町内会との繋がりが、昔からの知人との関係が継続できる様に、気軽に面会できる雰囲気を作り対応している。また、受診後は外食し在宅と同様の支援をしている(現在はコロナ感染症にてテイクアウトしている)。	馴染みある美容院に同行支援したり医療機関受診時の帰りに馴染みの場所に行くなど馴染みの関係が途切れないよう、また、友人や知人の来訪時にゆっくり過ごせるように支援したり、地域の行事に参加して馴染みの関係が途切れないよう支援していたが、コロナ禍の影響で自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活状況から入居者様同士の相性など確認し椅子の配置や家事作業の分担などの配慮をしている。新入居の場合は孤立する事の無い様に、職員が利用者間に入り交流しやすい環境をつくっている。良い関係性が継続し、互いに支えながら生活できる様に、自身の力や自分らしさを発揮できる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族でも行事には今後も参加したいとのご希望聞かれた際には、連絡を行い行事への参加して頂きお手伝いを受けながら、思い出話をしている。また、退去先の病院や施設に職員が面会に行き、地域でお会いした時にも挨拶以外に世間話を通じ近況報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の交流や生活歴の中で、ご本人の意向や希望を確認し記録に残すことで職員間の共有を図っている。意向等の確認が困難な場合や表面化しない希望に関しては、ご家族からの情報を受けながら検討している。	定期的なモニタリングや日常の会話や様子等で利用者の意向や要望を把握し、記録して職員で共有している。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から在宅に居た頃の生活スタイル等を聞き取りや訪問し、他事業所から受けていたサービスの情報を確認し、入居前のご本人の情報把握に努めている。		

グループホーム いたどり（ユニット舎）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送り、利用者個々の報告を行い毎日の状況把握に努めている。それ以外にも日々の気づきを記録に残し、普段より職員間の情報交換を行うことで利用者の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントとモニタリングを定期的に行い、利用者の担当介護員と副担当介護員を中心に意見を聞き、本人と家族からも面会時や電話でニーズなどを確認しながら意見の集約を行い、介護計画に反映し作成している。	利用者や家族から希望などを把握し、職員で定期的なモニタリングやアセスメントを繰り返しながら、長期は1年、短期は半年毎に介護計画を作成して家族に説明し同意を得ている。変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態や支援に対する結果や発見と気づきなどを個別に記録し申し送ることで情報の共有を図っている。また、情報については介護計画の見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家事作業や買い物・外出など、その時に聞かれる希望に対し都度提供したり、実施をしている。また、受診や帰省についても、その時に応じ実現する様に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として町内会に加入し、町内活動へ参加している。近隣との繋がりを持つ事で、利用者の事も把握し見守りをして頂きサポートを受けている。また、馴染みの店や場所などを生活に取り入れ、楽しめる暮らしを送れるように努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅に居た頃からの通っていたかかりつけ医がいる病院へ継続し受診できる同行支援を行います。また、状態の変化に応じては新たな病院先も検討し、その際は、ご本人とご家族の了解を得てかかりつけ医への相談を行っている。新たな病院へも必要に応じ情報提供書を提出し必要な診療を受けられる様にしている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医が基本で、受診は職員が付き添いしている。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成しており、常に本人の状態が把握できるようになっている。看護師が週2回健康状況を確認して利用者の健康面をサポートしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師によるバイタル測定を受けている。その際は、利用者の体調面や些細な状態変化など報告し、必要に応じ助言を頂き早期の受診に繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ情報提供書作成し提出している。入院中に面会に行き、病棟看護師からの情報を受け現状の把握に努めている。また、医療相談員と連携し入院による状態変化の把握に努め、退院後の適切な支援方法にむすび付けている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における事業所の方針や取り組みについては、契約時に説明し方針の共有を図っている。また、入居後の利用者の状態変化時に、ご本人やご家族へ再度終末期の説明を行い意向確認を行う。意向を確認した段階で、医師や訪問看護師との連携を図り、希望に沿った終末期を迎えられる様に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針（看護・介護指針）」を利用者と家族に説明し意向を確認し、同意を得ている。看取りは3～4件有り、利用者の身体状況に変化があれば、医師や訪問看護師と連携をとりながら、利用者や家族の意向に対応できる体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や休日時の緊急時へのフローチャートと連絡簿作成し緊急連絡体制を作成している。普通救命講習を受講し、AEDへの使用方法などの研修も受講している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	定期的に地震による津波想定避難訓練と、夜間想定火災訓練を行っている。訓練では消防署員の協力も受けることもあり、その際は、訓練後に講評を受け、効果的な消火方法や避難方法を学んでいる。また、水消火器使用し消火器の体験もしている。	消防署立会いで年2回昼夜想定した避難訓練を実施し、年1回の津波を想定した訓練を行っている。災害時の避難では近隣の特養の2階や本部のバスで近くの避難場所に避難する。全町一斉津波訓練にも参加している。備蓄食料品は、3日分確保している。また、緊急時に町内に対して応援依頼の放送を流せるシステムが出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の聴覚に応じた声のトーンで対応している。また、声掛けの際は相手の尊厳を尊重した対応をしている。ただ、時には利用者全員に対し同じ声のトーンで接している事もあるので、その様な事の無い様に、職員間で気にかけている。	重要事項説明書に「利用者の尊厳」を明記して、利用者の人権・プライバシー保護のための業務マニュアルが作成され、研修を実施しながらケアに反映させている。また、言葉掛けは利用者の生活歴や個性を尊重して関わっており、同じ目線に立ちプライドを損ねないケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択や決定ができる様に、いくつかの選択肢を提示し選んで頂いたり、聞き方や言葉の表現を個々に応じ変えながら、希望する事自己決定がしやすいようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援の時間や曜日、毎日の日課を決めず、その日・その時の利用者の身体・精神面などの体調及び希望に応じた、入浴・食事・就寝と起床時間などの支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で好みの服を選んで頂いている。また、外出時にはその日の天候などに合わせ自身で服の選択をして頂き、化粧をほどこし出掛けている。ご本人の意向に応じた髪型にして頂ける様に、事前に確認し理美容室へ依頼している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の嗜好に基づき、好まない食材時には代替(肉を魚に代替など)にて提供したり、食材の硬さや大きさなどにも配慮し、食事が楽しめる様になっている。家事については、利用者が得意とする部分はして頂き、可能と思われる家事作業についても声掛けしながら職員と協働している。	各ユニット2名構成で食事提供委員会があり、メニューや行事食等を決めている。近所のスーパーから食材を得て、利用者の能力に応じながら、食事作りをしている。コロナ禍で外食などはできないが、誕生日や季節食で食事の楽しさを支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個別に、飲食量の記録を紙面とパソコンにて行い、摂取量が不足している事をひと目で確認できるようにグラフにしている。利用者の覚醒状態や体調に応じた食事提供を行い、食事以外の時間も習慣で摂取していた物の提供を行っている。			

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行える方は、声掛けなど行い自身で磨いて頂き、終了後は口腔内の確認し必要に応じ一部介助をしている。歯磨き困難な方は介助にて支援している。義歯使用者の方も口腔ケアと洗剤の使用を声掛けしながら支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の24時間シートを使用し、個々の排泄間隔に合わせてトイレ誘導を行っている。また、その日の、食量や体調により排泄間隔など変化する事もあるので、その部分を含めた排泄パターンを意識しながら支援を行っている。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、タイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。利用者の状況によって排泄用品を使用しながら排泄の自立支援に職員全員で取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医へ排便状況を相談しつつ、オリゴ糖や乳製品等、便通に良い食品を家族と相談し購入し、なるべく下剤に頼らないようにしている。また、生活の中で体操や運動などの活動を行っているが、現状は十分ではないと思う。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自身が「入浴したい」と思ったタイミングで入浴支援を行っている。その為、毎日浴槽内にお湯を入れ、いつでも入浴できる様にしている。入浴中は会話や一緒に歌をうたいながら入浴を楽しんで頂いている。ただ、浴槽への入浴時間については心臓への負担がかからない様に既往歴に応じ配慮している。	入浴は週2~3回を目安に、利用者の体調を確認しながら希望する時間帯に実施し、利用者の希望により入浴剤を入れて、心身ともにリラックスできるよう支援している。入浴したくない人は時間をずらしたり、曜日を変更するなどの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動を行い、室内の温度・寝具・照明などの環境に留意し、安眠できる様に対応している。また、昼夜問わずリビングにて休息できる様に提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をユニットの薬ファイルに個別に綴り、いつでも薬の確認ができる様にしている。薬の変更など確認された際は、医師の言葉や薬の種類を記録し、ミーティングでも申し送り情報共有を図っている。毎日の薬の準備は担当が薬情を確認しながら曜日ごとにお薬をセットしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきた家事作業や花壇作り、適度な飲酒を継続し毎日に喜びやハリのある生活が送れるように支援している。また、縫物や塗り絵など入居後の新たな楽しみも見つけられる様にしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ近隣へ散歩したり、町内へ車両使用しドライブや買い物などに出掛けている。また、利用者全員に対し、体力や嗜好品に応じた、町外への外出機会も設けている。	例年は、近隣の散歩や地域行事に参加する等、外出支援に努めていたが、コロナ禍により外出を自粛している。家族との外出も自粛している。		

グループホーム いたどり (ユニット巻)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭自己管理の希望があれば家族への同意を得て所持して頂き、所持する事で安心感を持って頂いている。また、買い物などで金銭を自身で持ちお支払いする事や、お祭りの賽銭箱にお金を入れる機会も作っている。金銭管理している方には希望に応じ都度提示をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話支援を行ったり、家族から電話来た際にはご本人へ繋いでいる。手紙については、不定期であるが、ご本人がご家族宛てに手紙を書き、都度郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を玄関やリビングにほどこし、外出時や散歩・窓の風景と一緒に見てお話しながら、視覚や肌で季節感を感じて頂いている。装飾に関しては過度に飾ったり、派手な物を飾る事で混乱を招く事の無い様に配慮している。	広く明るい共用空間は、季節の物を飾ったり、観葉植物やぬいぐるみ等暖かく落ち着いた家庭的な雰囲気を醸し出している。温度・湿度の管理や換気したり配慮している。また、利用者はソファに横になったり、会話を楽しんだり、広いテラスがあり、夏場はそこでお茶を飲んだりして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外に景色が見える場所や廊下等に椅子を設置し、それぞれに明暗がある場所で個々で安心して過ごせる場所を作っている。食卓椅子では気の合う者同士で座り互いに安心できる様、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅より馴染みのある物を持参して頂き、配置も本人と家族と相談し自宅と同様に近い状態になる様にし、本人が使いやすい心地良い生活が送れるようにしている。	クローゼットやベッド(希望による)、カーテンが備えられ、床暖がある過ごしやすい居室になっている。馴染みの家具や仏壇等が持ち込まれ、自慢の作品や写真等も飾られていて、利用者が安心できる空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、トイレや廊下・浴室など手摺を設置し安全に移動できる様にしている。また、車椅子利用者も自由に移動できる幅と空間も確保し、それぞれの身体状態に合わせた自立した生活ができる様に努めている。		